

発行: 社会医療法人あいざと会
 発行者: 久保 一弘
 住所: 徳島県板野郡上板町
 発行所: 佐藤塚字東 288 番地 3
 電話: 088-694-5151
 FAX: 088-694-5321

ホームページ

あいざと便り

本年もよろしくお願い致します。

平成 29 年の年明けはよいお天気で、皆様穏やかに新年を迎えられたことと思います。

さて、第 30 号は、今後の精神保健医療福祉のテーマのうち大きい二つのものを特集と致しました。

今後の取り組みは「地域での暮らし」へと移り、「地域移行」「就労支援」はさらに「定着」が課題となります。様々な課題についての活動とともに、初めてピアサポーターの生の声を掲載しました。

あいざと会では、29 年度、「依存症研究所」の設立を予定しています。今回のカジノ法成立は「依存症」の問題を無視しております。あらためて「依存症」への取り組みを取り上げました。

社会医療法人あいざと会 藍里病院 理事長・院長 久保 一弘

特集 ①

地域へ、そして暮らしを支える

新しくなったスタッフ室



地域移行、

地域定着の取り組み

地域活動支援センターことじ 主任
 精神保健福祉士 久米川 晃子

平成二十四年から障害福祉サービスの一つとして「地域移行支援」が創設となりました。退院までの準備を病院だけでなく地域の相談支援事業所も行えるようになりました。ことじでは現在四名の方の地域移行支援を行っています。当法人の病院だけではなく、他病院の患者さんの退院の準備を病院スタッフと連携しながら行っています。主に病院を訪問し、面談や同行支援を行います。面談ではご本人が退院に向けて不安に思っていること、やってみたいこと等の聞き取りを行

い病院スタッフと共有します。また、意欲喚起が必要な方には「退院がしたい」という気持ちを持ち続けられるように行きたい所に同行したり、退院後に使用するサービス事業所の見学やデイ・ケアの見学に同行したりします。

専門職の関わりだけでは特に「共感」については限界を感じることもあり、こんな時にこそピアサポーターの方の活躍ができる場と感じます。個別の対応ではまだピアサポーターの活躍の場がない状況ですが、活躍の場を確保していきたいと考えています。そして、ご本人・家族・病院スタッフ・地域のスタッフ誰もが安心して退院できるサポート体制を構築する為にも日頃から目に見える関係作りに努めていきたいと思っています。

目次

特集1

地域へ、そして暮らしを支える... P1

特集2

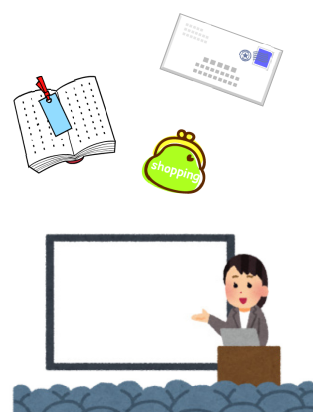
あらためて「依存症とは」... P5

ピアサポーターとしての日々

ピアサポーター あざみ

「ふらわあず」のピアサポーターとして四年目となり、少しずつ活動が有意義となり始めていると感じています。藍里病院の家族教室やアトリエひまわりの家族会へ招かれ、体験発表を三回しています。病院看護部との繋がりがなかなか進まず残念に思っていますが、文理大学のWRAP講習に参加して、少し繋がりを持てているのだと感じられました。月一回の病棟訪問の「暮らす+」（作業療法の時間を利用して、日常生活の困り事や気になる事についてテーマを絞り情報共有を行う）も、どうかピアサポーターの存在を患者さんたちが受け止めて下さるようになりました。しかし「暮らす+」は直接的な「退院目的で行っているものではない」との話が出ることもあつて、せつかくのチームプレイが壊れてしまいうように思うこともあります。最近、保健所スタッフ等のご努力もあつて、県内の他の病院へ招かれて話をするようにもなっています。

先日は、板野郡・吉野川市の自立支援協議会で「リカバリー」に関して



発表をしました。会には大勢参加されていましたが、ピアサポーター参加の退院支援には消極的なようでした。でも、藍里病院とことじのスタッフの“力”には勢いを感じました。

ピアサポーターの集い（患者さん、利用者とのレクリエーション活動）を二ヶ月に一度催していますが、思うように人は集まらず成果もなかなか上がりません。仕事をしながらの人や体調を崩す人もいます。残ったメンバーに負担がかかり大変な時もあります。けれど、個人的な動きもあり、それなりの意義を持つて私たちは行動しています。

私は週一度デイケアに参加し、最近は一入暮らしを始めていて、家事、買物、読書、美術展などの見学、そして、何人かいる友人に手紙を書くなど、毎日忙しく過ごしています。音楽も

好きでよく聴いていますが、歌によつては幻聴や妄想に繋がつて気持ちを左右されることがあります。

まだピアサポーターは制度化されてなくて、ほとんどがボランティア行爲ですし、メンバーも全員が藍里病院の患者さんでないこともあつて、スタッフも苦心しているようです。今年はスタッフと一緒に訪問活動ができるということかと考えています。

「住居」

すくも、グループホーム、アパート

精神保健福祉士 橋本 芳弘

宿泊型自立訓練施設「すくも」は、回復途上にある精神障がい者の方とともに、社会復帰や社会参加について考え、地域や家庭での生活づくりを支援していく事業所です。一定期間共同生活を送りながら、掃除や食事等の生活能力の維持・向上の訓練を行うとともに、積極的な地域移行ができるように努めています。利用期間は原則として二年以内となつています。

グループホーム上板共同炊事場



力し合いながら、多くの方が再発・再入院を最小限に抑え、地域生活を送っています。

退所先の生活の場としては、自宅、アパート、グループホームなどがあり、すくもでの生活を経て、自宅での生活に戻る方や、ホームヘルパーや訪問看護などを利用してアパートで一人暮らしを始めた方など様々です。長期入院等により、社会生活の経験が少ないことなどから、二年という短い期間では、生活を営んでいくためのスキルの回復・向上が十分でない方も多いの現状です。そういう方も地域で安心して暮らせる居住の場として、グループホームがあります。グループホームでは、世話人が関わり、心身の状況に応じて日常生活上の援助を行っています。また、入所者みんなで協力

最近の障害年金の問題

あいご社会 医療福祉部長
精神保健福祉士 中川 尚子

二〇〇八年時点において、障害年金を受給している精神障がい者は推定五十二万人といわれています。近年、障害年金を取り巻く状況として、不支給および級落ち、支給停止の割合が多くなっている印象があります。実際に、二〇一四年八月には、障害基礎年金の裁定請求（新規）の都道府県ごとの審査において、不支給の割合には約六割の格差があると報道され、後の厚労省の調査でもこれらの

事実が追認されました。

このような状況下で、国による専門家検討会が立ち上がり、ガイドラインとなる客観的な指標づくりや就労状況の評価のあり方の検討がなされ、診断書作成医師向けには診断書作成要領において評価時の留意点等が周知されました。とくに、就労状況の評価においては、結果としての収入や労働時間よりも、「何らかの配慮や支援があつて就労が継続できている場合には、それらが無い場合に予想される状態を考慮して記載すること」が必要であり、また、「どのような周囲からの支援等があつて、いまの仕事（生活）ができているのか」という視

表1 障害基礎年金の不支給割合
(平成22年度～平成24年度平均)

ブロック	都道府県	決定件数	不支給件数	不支給割合
北海道	北海道	5,127	595	11.6%
東北	青森	1,313	136	10.4%
	岩手	1,294	93	7.2%
	宮城	1,706	97	5.7%
	秋田	971	109	11.2%
	山形	944	60	6.3%
北関東・信越	福島	1,556	199	12.8%
	茨城	1,988	462	23.2%
	栃木	1,425	56	4.0%
	群馬	1,399	123	8.9%
	埼玉	4,671	759	16.3%
南関東	新潟	1,825	96	5.2%
	長野	2,030	118	5.8%
	千葉	4,629	565	12.2%
	東京	7,700	797	10.3%
	神奈川	6,312	455	7.2%
中部	山梨	645	79	12.2%
	富山	787	67	8.6%
	石川	995	67	6.7%
	岐阜	1,494	129	8.6%
	静岡	2,775	266	9.6%
近畿	愛知	4,906	631	12.9%
	三重	1,481	125	8.4%
	福井	565	49	8.7%
	滋賀	1,031	168	16.3%
	京都	2,031	251	12.4%
中国	大阪	6,865	964	14.0%
	兵庫	4,265	957	22.4%
	奈良	1,181	197	16.7%
	和歌山	945	121	12.8%
	鳥取	564	78	13.9%
四国	島根	641	42	6.5%
	岡山	1,575	215	13.7%
	広島	2,427	469	19.3%
	山口	1,226	260	21.2%
	徳島	684	43	6.2%
九州	香川	707	61	8.6%
	愛媛	1,451	139	9.6%
	高知	759	73	9.7%
	福岡	4,403	735	16.7%
	佐賀	808	185	22.9%
計(平均)	長崎	1,369	163	11.9%
	熊本	1,730	169	9.8%
	大分	1,058	258	24.4%
	宮崎	1,126	82	7.3%
	鹿児島	1,718	237	13.8%
	沖縄	1,932	340	17.6%
計(平均)		99,021	12,339	12.5%

厚生労働省より
地域差に関する調査結果

点で評価することなど、援助者側が制度を理解しておくことが大切です。

また、精神保健福祉士が年金の申請に関わる際には、これら制度の理解とあわせて、年金を受給することの意味、働き方などについて本人とやりとりする過程も意義あるものであり、よりひろがりのある暮らしにつながればと思います。

就労支援の課題

作業療法士 山本 恵

福祉サービスによる就労支援には就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援の三種類があります。

徳島県内には現在二十六の就労移行支援事業所と五十七の就労継続支援B型事業所があります。

就労継続支援B型では、現時点で一般企業への就職が困難な方に就労機会を提供するとともに、生産活動を通じてその知識と能力の向上に必

要な訓練などの障害福祉サービスを供与することを目的としています。

ことじでは、軽作業・農作業・清掃作業・喫茶作業等を提供する中で、利用される方それぞれの目標が達成出来るように支援しています。

その中で問題となるのが、作業を行うことで発生する工賃です。徳島県では、就労継続支援B型事業所における工賃向上計画を実施しています。

ことじでは平均工賃の低さが問題となっており、能力意欲の向上、作業の確保、適性に応じた作業の提供を行うことで生産性を向上させ、工賃の向上へとつながっていくことができるよう、支援をしています。

就労移行支援では、一般企業に就職を目指す方に対し、就労に必要な知識能力の向上を目的とした訓練

軽作業



や準備、就職活動支援及び就職後の職場定着支援を行います。

ことし内作業や外部委託作業にて就労準備性の向上を図った後、就職活動を開始します。ハローワークや職業センターの利用、職場見学や実習の機会を設け、より現実的な支援へと移行し、就職から職場定着へと繋がるよう支援を行います。

精神障害者の雇用義務化や法定雇用率の引き上げに合わせ、更なる就職者の輩出を目指します。

こころの医療福祉

相談センター

相談室 主任

精神保健福祉士 庄野 忠雄

当院では、平成二十三年六月、救急急性期医療の推進、地域移行と在宅精神科医療福祉の充実、迅速かつ適正な対応と情報の提供、利用者中心の医療および福祉、地域精神保健医療福祉への貢献を目的として、こころの医療福祉相談センターを立ち上げました。当初は平日と救急輪番日



の休日の午後十時までの対応でしたが、翌二十四年一月からは、二十四時間三六五日の体制となり、法人内、地域の関係機関と連

携しながら、患者様やご家族、警察、消防等からの、受診・入院他、様々な依頼や相談に対応しています。

センターでは、精神保健福祉士が、夜間休日の救急受診の窓口としての対応に加え、心のしんどさに寄り添い、生活等の相談にも乗ってきました。法人内の相談支援事業所（ことじ）のサービスで行っている、二十四時間の電話相談とも役割分担しながら、必要な治療やサービス等に繋げるための役割も果たしています。

今後は、入院から在宅へと、サービスの主体が移っていきます。法人を超えての協働も求められます。センターとしては、時代や患者様が求めるサービスが実施できるよう、取り組んでいきたいと考えています。

板野町とあいざと会 災害時避難協定を結びました



11月に藍里病院で“災害時避難協定”の調印式がおこなわれました。

大規模な地震や風水害などの災害時に、藍里病院の新館3階ホール及び、会議室を「福祉避難所」として利用できるよう、板野町と協定を締結しました。また、グラウンドも災害の危険から緊急に逃れるための「指定緊急避難場所」に指定されました。



福祉避難所への寄贈備品

- ・パック毛布（50枚）
- ・簡易トイレ（700回分）
- ・膝掛け（180枚）
- ・拡声器（10台）
- ・防災用具倉庫の棚の加工

株式会社吉岡組
徳島防災株式会社
株式会社阿波銀行
株式会社四電工
有限会社高源組



A館北入口(救急、デイ・ケア、A2病棟)の案内板設置。
福祉避難場所(3階ホール・会議室)の入口にもなります。

特集 ②

あらためて『依存症』とは

依存症の現在

藍里病院 副院長 吉田 精次

人間はなにかに依存しやすい生き物です。アルコール、薬物依存症などの物質依存とギャンブル依存をはじめとする行動の依存など、現在は様々な依存症に苦しむ時代です。

「依存行動は自己治療である」という考え方は依存症の理解に幅と深みをもたらしてくれました。意志の弱い、反省しない人間が依存症になるわけではありません。

物質依存においては、医師の処方する薬による処方薬依存の患者が



あいMAP

依存症の臨床経験が少ない援助者でも実施できるように作られたワークブックです。

増えています。行動の依存においてはギャンブル依存症の新しい相談数は昨年は六十件を超え、年々増え続けています。二〇一五年から窃盗症の治療を始めたところ、昨年は三十二件の新規相談がありました。ギャンブル依存も窃盗症も病気であり、回復できることがまたまた認知されていない現状です。

病気になるた人の治療をすることだけが医療の本分ではなく、病気になるための努力や方策が我々医療人に求められています。ギャンブル依存症が増えることを織り込み済みのカジノ法案などは本末転倒もよいところであると思います。

SMARTPS【せりがや病院覚せい剤再乱用防止プログラム】 (以下スマープ)からあいMAP(アイマップ)へ

A-2病棟主任 看護師 藤原 稔章

二〇〇六年に神奈川県せりがや病院で、依存症になった人の回復支援の道具として、スマープが開発されました。依存症の臨床経験が少ない援助者でも実施できるように作られたワークブックであり、現在、医療機関や保健行政司法機関等で広がりを見せています。

当院でも二〇一三年からスマープを導入しました。私がスマープを担当したとき、患者さんから「こんなふうに私の気持ちを聞いてくれることは今までなかった。自分のことを聞いてくれる人がいるということが、どれだけ嬉しいことか」と言われたことがあります。どんな支援技法が有効か、ということばかりが頭にあった自分でしたが、理解しようと耳を傾け話を聞くこと自体が、患者さんにとつては心を満たされるものだとい

ことを知り、意表を突かれる体験でした。以前、吉田先生が「人と人をつなげるベースとなるのがコミュニケーションであり、愛と理解が依存症の回復には大切な」と講演されていたことを、実感できた瞬間でもありました。医療者は「理想的な回復の道」を知っているつもりになりやすいために、それを患者さんに押しつけてしまいがちになりますが、スマープを通して、依存症治療とは、人と人との信頼関係を構築できるようになること、その「人への信頼」が、依存物質や依存行動に取って替わるものになるよう、患者さんと一緒にやっていくものだ、ということに気づかされました。

この度、このスマープをさらに愛にあふれた回復プログラムにしよう、と、藍里病院版スマープを開発することになり、名称も【あいMAP】に改称さ

れます。【あいMAP】の【あい】は、藍里病院の【あい】、また愛情の【あい】です。そして【MAP】にはアルコールや薬物を使わず、自分らしく自分が望む人生を送るための地図を自分自身で描いていけるようにという思いが込められています。これからも【あいMAP】を通して、愛と理解を持つて患者さんに寄り添い続けたいと思います。

徳島DARCからのメッセージ

ダルク代表 村上 亨

徳島DARC(ダルク)は、徳島県内で唯一の薬物アルコール依存症リハビリ施設です。(その他、ギャンブル・クレプトマニア・摂食障害・リストカットなどの自傷行為などにも対応しています)

徳島ダルクでは「今日一日(今日一日、薬やアルコールを使わずに生きる事)」を合言葉に、一日に三回のミーティングと、ウォーキングなどの運動を中心としたリハビリプログラムを行っています。ダルクの目的は、依存症などの病気で苦しんでいる仲間が、再び社会の有用な一員として、共に生きていく為の手助けをすることだけです。徳島ダルクは「ありのままを認

め合いながら、共に生きる居場所を、地域に根ざすこと」を理念として、活動を続けています。

藍里病院には、徳島ダルクの入寮・通所者(約二〇名)が、副院長の吉田精次先生を主治医に定期受診をさせてもらっており、緊急時には入院を含めて二十四時間体制で対応をしてくださっています。藍里病院のスタッフの方々には大変お世話になっており、徳島ダルク一同、心から感謝と信頼をしております。

徳島ダルクは国から公的な補助を受けていない民間団体です。そのため、運営や仲間たちの回復プログラムに必要な資金の不足に悩まされています。ゴヒー一杯分からでも構いませんので、どうか献金のご協力をお願い致します。

献金の振込先

ゆうちょ銀行

口座記号:01600-0

口座番号:69133

加入者名:徳島ダルク支援会

徳島ダルクホームページ

<http://www2.hp-ez.com/hp/tokushimadarc>

徳島ダルクフォーラム

テーマ「ともに生きる」

平成29年2月18日(土)

13:30~17:00

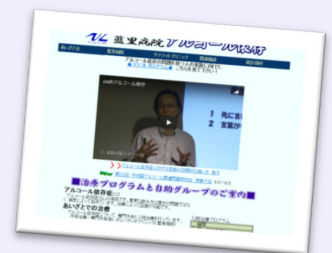
徳島市ふれあい健康館
(第2会議室)

参加費
無料

家族支援CRAFT最新版

臨床心理士 小西 友

CRAFTとは、依存症者の家族に対するプログラムです。依存症は、本人自身が自ら問題を解決しようと行動を起こすことが難しく、困った家族が先に病院に相談に來られるケースが大半です。こうした家族に対して、「本人に治療の意思がなければどうにもできません」と突き放すのではなく、まずは家族ができることとして、本人への対応の仕方、特にコミュニケーションスキルに焦点を当て、具体的実践に教示するのがCRAFTです。実は、日本の医療現場にCRAFTを導入したのは、当院が初めてです。平成二十五年に開始して以降、当院での実践はもとより、全国各地でCRAFTのワークショップを開催



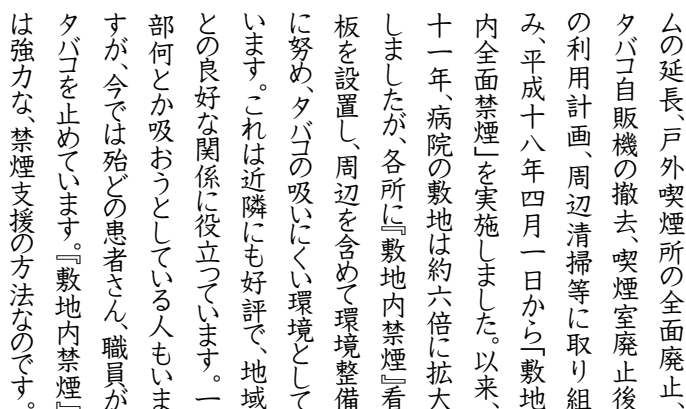
当院のホームページで、CRAFTのDVDを見ることができます。
<http://www.aizato.or.jp/>

トップページ
アルコール依存症の家族支援
CRAFT 最新版! 動画を
をクリック

し(吉田副院長)、私も何度も講師を務める機会をいただきました。ワークショップはいつも定員オーバーの立ち見が出る状態で、多くの質問が出るなど参加者の熱意を感じます。開始当時は細々と始まったCRAFTでしたが、全国に着実に広がっていることを実感する場面です。また、昨年は厚生労働科学研究の一環としてDVDも制作され、私も役者?として出演しました(これは当院ホームページでも視聴できます)。制作されたDVDは、全国の精神保健福祉センターに送付し、さらにワークショップなどで希望された方へ配布しています。こうした効果もあつてか、今では日本でCRAFTを受けることができる機関はずいぶん増えているようです。依存の問題でお困りの方は、ぜひ一度当院ホームページをご覧ください。

藍里病院 院長 久保 一弘

平成七年、新病棟建築を機に院内に約十力所の喫煙室を設けて病棟は「分煙」、外来・管理棟は「禁煙」とし、衛生委員会を中心に禁煙活動を行いました。しかし、「分煙」の十一年間には職員も喫煙率が高くなり、「分煙」では本人のタバコ被害はなくならないばかりか、「受動喫煙」防止にもならないと分かりました。院内に院長直属の「禁煙推進支援委員会」をつくり、院内教育の強化、禁煙タイ



最近、県内外の病院で職員が「敷地内禁煙」を守らず、診療報酬の返還を命じられたり、新聞で批判されたりしています。二〇二〇年オリンピックに向けて禁煙の法律が成立しそうです。「喫煙」習慣はコチン依存症で保険診療の対象疾患です。病院は「禁煙」の模範とならなければなりません。各病院で院内「禁煙」推進の委員会活動をお願いしたいと思います。

A red circular sign with a diagonal slash over a black cigarette, indicating that smoking is prohibited.



藍里病院

精神科・心療内科・内科・歯科

精神科デイ・ケア 精神保健相談
精神科訪問看護 禁煙 外来

受付

(午前) 月～金曜日 午前 9:00～11:30
(午後) 月～水・金 午後13:00～16:00

診療

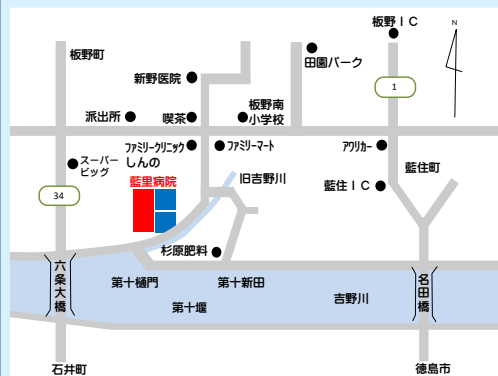
(午前) 月～金曜日 午前 9:30～12:30
(午後) 月～水・金 午後13:30～16:30

休診日

土曜日、日曜日、祝祭日、木曜午後

歯科診療

(午前) 月・水・金 午前 9:00～12:00
(午後) 月・水・金 午後12:45～15:45



〒771-1342

徳島県板野郡上板町佐藤塚字東288番地3

TEL 088-694-5151 FAX 088-694-5321

交通案内

●徳島バスご利用の場合

北岸廻り/徳島～鴨島線(一条経由) 第十新田又は第十樋門下車-徒歩10分

●JR・タクシーご利用の場合

蔵本駅より-車で約15分
板野駅より-車で約10分
石井駅より-車で約12分

●自動車道ご利用の場合

高松道板野ICより-約10分 徳島道藍住ICより-約7分

あいざと会医療福祉相談センター **24時間365日受付** TEL 088-694-5151

「精神科救急・一般的精神医療相談・生活相談」等の時間外相談に対応

休診日

休日・時間外の救急
診療を受付致します

あいざとパティオクリニック

心療内科・精神科

(精神科訪問看護、地域連携、精神保健相談実施)

受付 (午前) 月～水・金・土 午前9:00～12:00
(午後) 月～水・金 午後1:30～6:00
土曜日 午後1:30～5:30

診療 (午前) 月～水・金・土 午前9:30～12:30
(午後) 月～水・金 午後2:00～6:30
土曜日 午後2:00～6:00

休診日 日曜日・祝祭日・木曜日

外来	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
新患・再来	山下 吉田成	元木 吉田成	森垣 吉田成	中木	吉田精 吉田成	山下 吉田精	休診日		藤本	藤本	山下 吉田成24	藤本135 吉田成24
専門外来	山下 ストレス	吉田成 もの忘れ			吉田精 依存症	吉田精 依存症			藤本 うつ病		山下 不眠	



交通案内

●バスご利用の場合
県立中央病院・大学病院
前下車-徒歩3分

●JRご利用の場合
蔵本駅より-徒歩約3分

●駐車場=蔵本駅前パーキングを利用して下さい
受診時は無料になります。

770-0042 徳島県徳島市蔵本町2丁目30番地1パティオくらもと2階
TEL 088-634-1881 FAX088-634-1880

あいざと山川クリニック

心療内科・精神科

(デイ・ケア、精神科訪問看護、地域連携、精神保健相談実施)

受付 (午前) 月～水・金・土 午前9:00～12:00
(午後) 月～水・金 午後2:00～4:00

診療 (午前) 月～水・金・土 午前9:30～12:30
(午後) 月～水・金 午後2:30～5:00

休診日 日曜日・祝祭日・木曜日

外来	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前				休診日		鬼原 135 中木2 元木4
午後	鬼原	岡部	鬼原		鬼原	



交通案内

●JRご利用の場合
阿波山川駅より 徒歩8分

●駐車場=クリニック内及び表示場所

779-3403 徳島県吉野川市山川町前川200番地2
TEL 0883-42-8811 FAX 0883-42-8812